

1の1 生活科学習指導案

第2日1限 1の1

授業者 田川 信子
木戸 寿和子

1 単元名 ぼくわたしのできること

- 2 目標
- ・ 家族に対する自分なりの思いを表現したり、その一員として自分にできることを考え実行しようとする
 - ・ 家族と自分とのかかわりについて調べ、家族が自分を大切にしてくれていることや自分が家族に支えられて生活していることに気付く

3 指導にあたって

社会の価値観が多様化する中、子どもたちを取り巻く家族の様相も多様化してきている。しかし、いかに家族の構成が変化しそれぞれの暮らし方が違ってこようとも、どの家庭にも深い心のつながりや温かい雰囲気があり、お互いに支え合って生活しているよさがある。

本学級の子どもたちは、核家族がほとんどで一人っ子育ちも多い。家族があまりにも身近で自分と一体化してしまっているため、毎日の食事や身の回りの世話などはあつて当然としか受け止めていないようである。そのため、家族の思いや自分が家族に支えられて生活していることについてはぼんやりとしか気付いていないと思われる。

そこで、本単元では、自分が生まれた頃の家族のかかわり方やその思いを知ることをきっかけとして、現在の家族について意欲的に調べさせる。その活動を通して、自分の家族のよさや家族の中の自分の役割を見つめ直すことをねらっている。

自分が生まれた頃のことや現在の家族について調べる活動を通して、自分が家族に大切にされていることに気付かせたい。また、調べたことをもとに自分なりに表現していく活動を通して、家族のよさや家族の一員としての自分の役割に気付かせたい。そのため、本単元における基礎基本を次のようにとらえた。

- ・ 自分の生まれた頃の家族の気持ちを調べ模擬体験をすること
- ・ 家族の仕事調べをすること
- ・ 自分の家族を自分なりの思いでみんなに紹介すること

これらの活動を通して、自分は家族に支えられていることを実感し、自分の家族のことがもっと大好きになっていくことを期待している。さらに、人間はたった一人では生きていけないこと、家族を始めとする身の回りの人々とかかわりながら生活していることに気付かせ、家族はもちろ身の回りの人々まで大好きと思えるようになってほしいと願っている。

単元計画 (総時数10時間+課外)

主な活動と内容	学びを広げ深めるために
1 自分の生まれた頃のことについて調べる ・ お母さんはお腹がすごく大きくなるんだな ・ 生まれたばかりの赤ちゃんて小さいんだな ・ 自分もこんなだったのかな 自分が生まれた頃のことを調べよう 家族にインタビュー→模擬体験→家族からの手紙 自分は家族にとっても大切にされたんだな	①② 道徳 命のすばらしさ
2 現在の家族について調べ紹介する 家族についてもっと調べたいな 取材・観察 お母さんは家族のためにたくさん仕事をしているんだな お父さんも手伝っているんだな 家族の紹介 大好きな家族を紹介したいな ペープサート 家族あてクイズ 紙芝居 家族新聞 家族のことがわかったたよ 家族っていいな	①③④
3 自分にもできることはないか考える ○○ならできそうだ ○○をやってみたいな 上手にできたよ 喜んでもらえてうれしかった これからも続けてみようかな	②

学びを広げ深めるために

① 具体的な活動や体験を重視する

本単元は、家族に取材する活動を核にして展開する。日頃かかわりの深いお母さんだけでなく、その他の家族にもインタビューさせたい。直接家族に取材したり観察したりする活動の中で、家族のことが具体的に見えてくると考える。課外の活動になるため、家庭と連絡をとりながら時間的ゆとりをもって活動させたい。
→意欲的に家族に取材する姿

② 子どもの気付きを大切に広げ深める

単元の導入で、妊婦さんと生後三ヶ月の赤ちゃんを抱いたお母さんの話を聞く場を設定する。子どもたちは「大変そうだな」「かわいいな」という純粋な気付きを持つだろう。また、家族の仕事調べをして「お母さんは忙しいんだな」と気付くだろう。それらを自分とのかかわりでとらえさせるために、妊婦体験や家族になって役割演技する活動を取り入れたい。それによって、家族が自分を大切にしてくれていることに実感をもって気付くようになるだろう。
→気付きを表出する姿

③ 活動の連続性を図り、意識の流れを大切にする


妊婦さんや赤ちゃんとは直接ふれ合う体験を通して「自分が生まれた頃はどうかだったのかな」「調べてみたい」という意欲が高まり、家族へのインタビュー、家族の仕事調べと活動が広がっていくだろう。家族紹介の活動では、その子なりの家族に対する思いが表出できるように自分なりの方法で行わせたい。
→自分の思いを大切にする姿

④ 活動を通して生活上必要な技能を身につけさせる

家族にインタビューするとき、どんな聞き方をすればいいかを事前に話し合わせたい。また、単元の終末では、家族のために自分ができそうなこと（洗濯・皿洗いなど）を考えさせ、家庭と連携をとりながら実行させたい。
→家族のために意欲的に取り組む姿

4 本時の学習（4 / 10時）

ねらい 自分が家族によって大切に育てられてきたことに気付く
本時の展開

主な活動と内容	教師の働きかけ
<p>1 本時の課題を確認する</p> <p>自分が生まれた頃の自分の家族に変身しよう</p> <p>お母さんになりたいな ぼくお父さんになるよ おじいちゃんやおばあちゃんもいるよ</p>	<p>これまで調べたことをもとに家族に変身しようと投げかけ「変身グッズ」をみせ意欲を喚起する</p>
<p>2 グループごとに家族になって劇をする</p> <p>自分がお腹の中にいる時 生まれたばかりの時</p> <p>おなかの重たいわ 転ばないように気をつけなくちゃ 重たい荷物を持ってあげるよ 栄養のある物をたくさん食べてね きれいな音楽を聞いてね 元気な赤ちゃんが産まれてほしいな</p> <p>どうして泣いてばかりいるのかしら こまったわ お腹がすいているのかな おむつがぬれたのかな 熱はないかしら</p> 	<p>家族の気持ちを劇化して考えさせる その際 妊婦体験や赤ちゃんを抱く体験を取り入れ家族の大変さを実感させる</p> <p>体験コーナーをたくさん設け 多くの子が体験できるようにする</p>
<p>3 家族からの手紙を読む</p> <p>家族のみんながぼくのことを大事にしてくれたんだな</p>	<p>活動で得た気付きを自分なりに表現させる</p>

1 単元名 冬をたのしくパート1 ～みかんだいすき～

- 2 目標
- ・身近なところで冬を見つけたり、みかんで遊んだりして冬を楽しむとともに、2年生を招待してみかんパーティーを行うことができる。
 - ・みかんでいろいろな遊びができることに気付く。

3 指導にあたって

単元計画（総時数 15時間）

本単元の基礎・基本について



本単元では、冬の代表的な果物であるみかんとみかんを学習材として取り上げる。冬の代表的な果物といっても、今では夏でもハウスみかんがあり、みかんの持つ季節感は随分薄くなってきている。しかし、冬になると市場に出る量や種類は多くなり、子ども達のみかんに触れる機会も増えるであろう。子ども達にとっておなじみのみかんであるが、汁でのあぶり出しや、油をとばしての花火やみかん染めなど、みかんで遊ぶ体験はほとんどないと思われる。そこで、本単元の基礎基本を次の様に考えた。

- ・みかんに興味を持ち、遊びを楽しむこと
- ・遊びに必要な技能を身に付けること
- ・みかんパーティーを開いて2年生と関わること

1年生は、五感を通して体験することが大切であると考え。手で触ったり、においをかいだり、比べて味わったりすることで、今まで何気なく口にしていたみかんへの思いがふくらんでいくであろう。五感を通して得る体験を重ねることによって、豊かな感性が育つと考える。

また、単元後半には2年生を招いてのみかんパーティーを計画する。一緒に遠足につれていってもらったり、おもいほりをしてもらったりしてやさしくお世話してくれる2年生を自分たちが招待する初めての体験である。子ども達はグループで計画を立てたり準備したりして2年生に喜んでもらおうと張り切って活動するであろう。これらの活動を通して、自分たちで創りあげる満足感、相手が喜んでくれるうれしさを味わうことができると考えている。

本単元で得た体験は、自分の身近にあるものを見直し、生活を豊かにしていくきっかけになるであろうし、自分たちが学習の主体者であるという自覚を促しこれからの学校生活を豊かにしていくことにつながるであろう。

主な活動と内容		学びを広げ深めるために
1	冬の散歩をする ・雪吊りがあるよ 冬の準備だね ・年賀状を売ってるよ	①②
2	冬見つけをする こたつ みかん 息が白い	② 初霜
3	みかんで遊ぶ みかんで遊ぼう	①②③④
	<ul style="list-style-type: none"> ・みかんのひみつ かずのあてっこができるよ 花火ができるよ 切ってみたら… ・あぶり出しをしよう ・いろいろなみかんであそぼう オレンジ、いよかん、はっさく… ・みかんのかわでバスタイム ・みかん色に染めよう ・みかんジュースでかんぱい！ ・レモンの砂糖漬けを食べよう 	算数 ひきざん2 みかんで… 
4	みかんパーティーの準備をする ・2年生を招待しよう ・どんなコーナーを作ろうかな	③④
5	みかんパーティーをする ・ようこそ2年生！ 楽しんで下さいね	①④
	あぶり出しコーナー レストランコーナー みかんのヒミツコーナー 	
5	みかんのたねをまく ・またみかんで遊びたいな ・みかんのたねをまいてみかんの木を育てよう	①③

学びを広げ深めるために

① 具体的な活動や体験を重視する

本單元における具体的な活動とは、季節の散歩をする、冬を探す、みかんで遊ぶなどである。みかんでの遊びは、あぶり出しやみかん染め、ジュースをつくるなどの活動を計画している。普段何気なく歩いている学校の周りを、冬見つけをすることで見直したり、おなじみのみかんの新しい発見をすることは、これからの冬の生活を楽しもうとする意欲につながるであろう。

→遊びを楽しむ姿

② 子どもの知的な気づきを大切に

冬見つけやみかん遊びの活動を通して、子ども達は様々な気づきを生み出すであろう。例えば庭木の雪吊り、朝夕吐く息が白いこと、みかんの汁であぶり出しができること、みかんの種類によってあぶり出される汁の色が違うこと…である。これらの気づきを共感をもって受け止め大切にしていきたい。

→気づきを表出しようとする姿

③ 活動の連続性を図り、意識の流れを大切に

みかんとのお集いの場でみかんの絵本を紹介する。子ども達はその絵本からみかんでの活動をイメージし、やってみたいという意欲や活動の見通しを持つであろう。また、2年生を招待してのパーティを計画することでみかん遊びの活動をふりかえり、新たな活動への意欲を持つと考えられている。

→見通しを持って活動する姿

④ 活動を通して生活上必要な習慣や技能を身に付けさせる

本單元では、みかんを使って遊ぶ活動が主な活動となる。この活動を通して、みかんを洗う、切る、汁をしぼる、皮をむく、煮るといった技能を身に付けさせる。また、2年生を招いてのパーティを通して、会の計画、準備運営といった活動を体験することで、人とかかわる楽しさを味わったり、会を行うときに必要な技能を身に付けさせることができると考えている。

→意欲的に活動する姿

4 本時の学習 (4/15時)

ねらい みかんの汁であぶりだしをして楽しむ。

本時の展開

主な活動と内容	教師の働きかけ
1 あぶり出しの方法を知る	あぶり出しの方法を知らせ 安全面の指導をする
みかんのしるであぶりだしをしよう	
2 あぶり出しの準備をする	
みかんを切って しるをしぼろう	しるでえをかこう どんな色がでてくるのかな
きゅっとしぼるよ	
わあ しるがでてきたよ!	みんなであぶり出しを 楽しむためクイズ形式 にして行う
3 あぶり出しクイズをする	
わたしのかいた絵をあててください!	
ヒント1 まるいです	
ヒント2 だいたいいろです	わかった!みかんだよ
ヒント3 おいしいです	



1の3 生活科（英語活動）指導案

第2日1限 1の3
 授業者 乗富 章子
 John Bruce Lane

1 主 題 おいしい あき（生活科単元名 あきをたのしく）

2 目 標 ・果物の名前を英語で言うことに関心を持ち、EAAや友達とのコミュニケーションを楽しむ
 ・英語の歌やゲームなどの活動を楽しむ

3 指導にあたって

本主題は、生活科の内容(1)「学校の施設の様子及び先生など学校生活を支えている人々や友達のことが分かり、学校において楽しく遊びや生活ができるようにする」に関連して設定した「がいこくのひととなかよし」の単元の一部である。「がいこくのひととなかよし」では、年間10回の英語活動を、生活科の他の単元の中に位置づけて行うことで、子どもが違和感なく英語活動を受け入れられるようにしている。このような考えから、以下、指導案を英語活動として示していく。

子どもたちは5月以来、月一回の英語活動をととても楽しみにしてきた。一年生の子どもにとってEAAは、学校の他の先生と同じような存在であり、英語も難しい日本語とあまり変わらない印象を持っているように思われる。これまでの英語活動では、EAAと自己紹介し合った後、歌やゲームを楽しみながら、色の言い方を教わったり。絵本を読んでもらったり、動物の名前を覚えたりしてきた。そのような活動を楽しむ中で、謙虚で温かなEAAの人柄に触れて恥ずかしさが次第に薄れているが、まだ目を見て話すことが不得意な子どももいる。

一方生活科の学習では、「あきをたのしく」で、身近な秋を感じて様々な活動を通して秋ならではの楽しさを味わってきた。

本時は、秋の果物のいくつかの言い方、「これは〇〇です。」「わたしは〇〇が好きです。」の言い方を学ぶ。登場する果物は、りんご、みかん、ぶどう、かきなど、秋の店頭に並ぶおなじみのものである。また、「これは〇〇です。」「わたしは〇〇が好きです。」の言い方、さらにEAAの「What's this?」の問いかけは、これまでの活動でも何度か耳にしているのであまり抵抗はないと思われる。

学びを広げ深めるために

① 声を出すことを大切にする

子どもが声をそろえて一斉に言ったり、個々で言ったりする場をできるだけ多く持ちたい。学習のはじめの挨拶、これまでの復習の場面、歌を歌うときなどは自信をもって言うことができるよう、楽しい雰囲気を作り出したい。また、果物の名前を英語で言う活動では、箱の中にある果物を当てるゲームをすることで個々がはっきりと声を出せるようにしたい。

② 繰り返すことを大切にする

始まりの挨拶、これまでの復習、中心となる活動、終わりの挨拶というような順序で活動が流れていく。中心となる活動で出てくる単語以外は、以前の英語活動でも学んできた内容である。果物の言い方でも、apple, grapeなどは子どもにはおなじみのものであろう。繰り返すことで、英語を身近に感じられるようになっていくことを願っている。

③ 楽しく生活に役立つ活動を工夫する

生活科の学習の中に英語活動を位置づけること自体がこのことを意味する。さらに、扱う素

単元計画（生活科）















主 な 活 動 と 内 容	
1 秋をみつける	・虫 草花 落ち葉 木の実など たくさんの秋をみつけたよ
2 秋を楽しむ	・虫のおうちをつくろう ・くつつき虫で絵をかこう ・落ち葉のしおりをつくろう ・実の汁で遊ぼう ・どんぐりで遊ぼう
3 秋を味わう	・さつまいもがおいしいね ・果物を英語で言ってみよう 本時
4 秋を振り返る	・楽しいことがいっぱいあったね

材をできるだけ子どもの日常生活に求めた。そして箱の中にある果物をその手触りで当てたり、「上手にできたら食べよう」という約束で活動したりして楽しい雰囲気を作っていきたい。

④ EAAと子どものコミュニケーションがたくさん取れるような活動を心がける

一緒に当てっこのゲームを楽しんだり、歌を教えてもらったりするほかに、子どもがEAAに日本語を教えることとすることで、互いのコミュニケーションを一層はかりたい。

4 本時の展開

主な活動と内容	H.R.Tの支援 	E.A.A.の支援 
1 Johnと挨拶を交わし 歌を歌う	子どもと共にEAAに話しかける	Good morning, everyone. How are you?
		
Good morning.	『Good morning』 や今月の歌『Sing』 の伴奏をする	I'm fine, too. Thank you.
I'm fine, thank you. And you?		
2 これまでに習ったことの復習をし warming up をする		
<ul style="list-style-type: none"> 『How is the weather?』『Merry had a little lamb』を歌う  絵カードで 習った英単語を思い出す 		
3 本時の活動を楽しむ		本時の英語表現
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 果物の名前を英語で覚えよう Johnには 日本語の言い方を教えてあげよう </div>		apple, pear, persimon, chest nut, grape What's this? It's I like
<ul style="list-style-type: none"> 実物を見てその英語表現を知る EAAの「What's this?」の質問に「It's」と答えられるようになる 自分の好きな果物を指し「I like」と言う 引いたカードの果物でグループを作る グループごとに英語で言えるように練習する Johnに自分のグループの果物の名前の日本語を教える 子どもは英語でJohnは日本語で言えるようになったら果物をいただく 	果物を提示しながら 発音指導する 	
	 子供と共に発音する 絵を提示し言葉を 思い出させる	
	 It's an apple.	 I like grapes.
	 Kore wa ringo desu. Budou desu.	
4 終わりの挨拶を交わす		 You are welcome. See you.
 Thank you, John. See you.	 子どもひとりひとりが Johnの目を見て 握手 しながら挨拶でき るように見守る	

2年 生活科学学習指導案

第2日2限 2年教室

2年オープンスペース

授業者 興井 綾子

松 中 基

石 川 誠

1 単元名 おいでよ わくわくランドへ

- 2 目標
- ・他の人にも楽しさを伝えたいという思いをもとにして、自分たちのフェスティバルを友達と積極的に作り出そうとする。
 - ・自分なりの思いをもって祭りを計画し、協力して行うとともに、その喜びや楽しさを工夫して表現することができる。
 - ・同学年の友達や小さい子とのかかわりに気づくことができる。

3 指導にあたって

本単元の基礎・基本について

自分達が授業の中で楽しかったという思いを他の人にも広めたいという意識のもとに、計画を立てたり、準備したり、フェスティバルを実際に行うことを本単元では意図している。これらの活動を通して、次の三つのことを基礎・基本ととらえ、この単元で養っていきたいと考えている。

まずは、季節を感じとる心とものを大切に作る心を培うことである。店で扱うものは、自分達が収穫した野菜であったり、拾ってきた木の葉や木の実などである。自然のものとかかわる活動を通して、手触り、においなどの感覚がより増すと考えている。しかも、自分達が苦勞して手に入れたものであるため、ものを粗末にしない、大切に扱おうという心が育ってくる。そして、廃品などの身近材料の利用とともに、既製のものにはない、素朴なものを利用した楽しさを味わうことができると考えている。

また、友達と協力して作り上げていこうとする力である。みんなの考えを出し合い、計画を立てて実行する。分担したり協力したりしてつくりだしたり、クラスで取り組んだり、学年全体で取り組んだりという場が出てくる。みんなで力を合わせないと、フェスティバルはうまくいかないわけである。だから、フェスティバルを終えた時には、大きな満足感と充実感が生まれると考えている。そして、それらの活動の中で、友達のよさを見つけ、より仲良くなったり、クラスや学年のまとまりがより強くなると思われる。さらに、お店番やいろいろな活動を行う中で、自分にもこんなことができるんだという自信につながるであろう。

最後に、友達や異年齢の子を思いやりをもってかかわれることである。今回は、幼稚園の子を招待することになっている。そのためには、幼稚園の子が安心して楽しく参加できる工夫や配慮が必要となる。招待状をあげたり、やさしく対応してあげたり、小さい子にかかわる中で、思いやりの心が育ち、お兄さん、お姉さんとしての満足感を味わうであろう。

単元計画（総時数 9時間＋他教科・特活）

主な活動と内容		学びを広げ深めるために
野菜で遊んで食べ て楽しかった	幼稚園の子との 遊び楽しかった	木の実などの遊 び楽しかった
学活 学年集会	他のクラスにも伝えたいな	
音楽・体育 わくわくラ ンドの歌 おどり	1 2年生フェスティバルの計画を立てる 〈2年生でお店屋さんを开こう〉	③
	・どんなお店にしようかな ・わくわくランドの歌があるといい ・幼稚園の子もよぼう	
	2 わくわくランドの準備をする	①②④
	やさしいランド プレイランド おもちゃランド	
図工 ポスター 衣装作り	3 わくわくランドをする	①④
	・お店のポスターも作ろう ・衣装も作ろう ・いっぱい来てくれたよ ・楽しんでくれて うれしいよ	
学活 学年集会	4 打ち上げパーティーをしながら 返りをする	②④
	・よくがんばったね	

学びを広げ深めるために

① 具体的な活動や体験を重視する

お店屋さんごっこを取り入れることでいろいろな表現活動が生まれたり、創造活動が生まれたりする。そうした中で子どもたちは、「うまくできた」「楽しんでもらった」という思いを重ねることにより、自信が生まれてくる。そのために、前もってお店屋さんは前半と後半に分かれてすることを確認したり、クラスごとに本番前に練習をして、「幼稚園の子や友達にわかるかな」という問題意識を持って教え合いをする場をもうけたい。

また、自分達の活動を途中や最後で振り返ることで、次の活動のめあてがはっきりしたり、秋と自分達のかかわりが見えてきたりすると思われる。 →活動を楽しんだり、振り返ったりする姿

② 子どもの知的な気付きを大切にす

「小さい子には、やさしく声をかけてあげた方がいいよ。」「ドングリごまは、さす棒をまっすぐにした方がいいよとお客さんに教えてあげよう」などの発言が見られたら、誉めてあげたい。そして、「どうしてそうした方がいいの?」と内容を尋ね返したり問いかけたりして、より子どもたちの思いに共感したい。 →気付きを表出する姿

③ 活動の連続性を図り、意識の流れを大切にす

「お店屋さんを開いて2年生のフェスティバルをしよう」という大きなめあてのもとに授業を展開したい。「こんなフェスティバルにしたい」という願いや、「そのためには〇〇準備もいるよ」という児童の発想や気持ちを大切にしていきたい。 →自分達の思いや考えを大切にしてい進めようとする姿

④ 活動を通して生活上必要な習慣や技能を身に付けさせる

グループで準備や店を開く活動や幼稚園児を招待することによって、それらの中で安全に気をつけて、協力して作業を行おうとしたり、小さい子を思いやったりする心を育てていきたい。 →人とかかわろうとする姿

4 本時の学習 (6、7/9時)

ねらい お店屋さんごっこの活動を通して、友達や幼稚園の子とかかわったり、楽しんだりすることができる。

本時の展開

主 な 活 動 と 内 容	教 師 の 働 き かけ
1 「わくわくランド」について確認する	音楽を流して 活動意欲を高める
<ul style="list-style-type: none"> ・いよいよ本番 ・時間を守ってしよう 	
わくわくランドで 自分もみんなも楽しもう	
2 わくわくランドを楽しむ	
やさいランド	プレイランド
	おもちゃランド
<ul style="list-style-type: none"> ・しっかり店番だ ・幼稚園の子にはやさしく 	迷路にまよった
いらっしやい	楽しいな
	こまなら まかしといて
	活動中 児童同士 の力で解決できない 問題が生じたら「どう したの」と声をかけ 一緒に考えたい
	前半と後半の間・終 了時に音楽を流して 活動の目安としたい
3 ふり返りと後かたづけをする	
<ul style="list-style-type: none"> ・店番がしっかりできたよ ・お客さんも喜んでいたよ ・2・3組のお店屋さんも楽しかったよ 	もっとお店をしたいという発言が出たら「みんなどうする」と投げかけ 次回の見通しを持たせたい